

～第32回 日本老年泌尿器科学会での発表について～

ベネッセ シニア・介護研究所
「夜間のパッド交換見直し」をテーマにご報告

株式会社ベネッセスタイルケアの社内シンクタンクであるベネッセ シニア・介護研究所は、6月14日、15日に開催された第32回 日本老年泌尿器科学会において、現在研究中の「夜間のパッド交換見直し」について口頭発表いたしました。

発表の概要は以下の通りです。

- 夜間のパッド交換見直しが睡眠状態および意欲・ADL に与える影響
—大規模データに基づく効果検証—

発表内容の詳細は次ページ以降をご確認ください。

**夜間のパッド交換見直しが
睡眠状態および意欲・ADLに
与える影響
— 大規模データに基づく効果検証 —**

福田亮子、祝田健、加藤夕子（株）ベネッセスタイルケア

花城健斗（ユニ・チャーム(株)）

第32回日本老年泌尿器科学会 COI 開示

筆頭発表者名： 福田 亮子

私は今回の演題に関連して、
開示すべきCOIはありません。

背景および目的

【背景：夜間の排泄ケアにおける問題】

従来：
巡視のたびにパッド交換
（「良かれと思って」）

- 入居者の良眠を妨げている可能性
- スタッフの負担も大きい

解決策：
長時間使用しても肌をさらさらに保つ
パッドの利用により、交換回数を低減

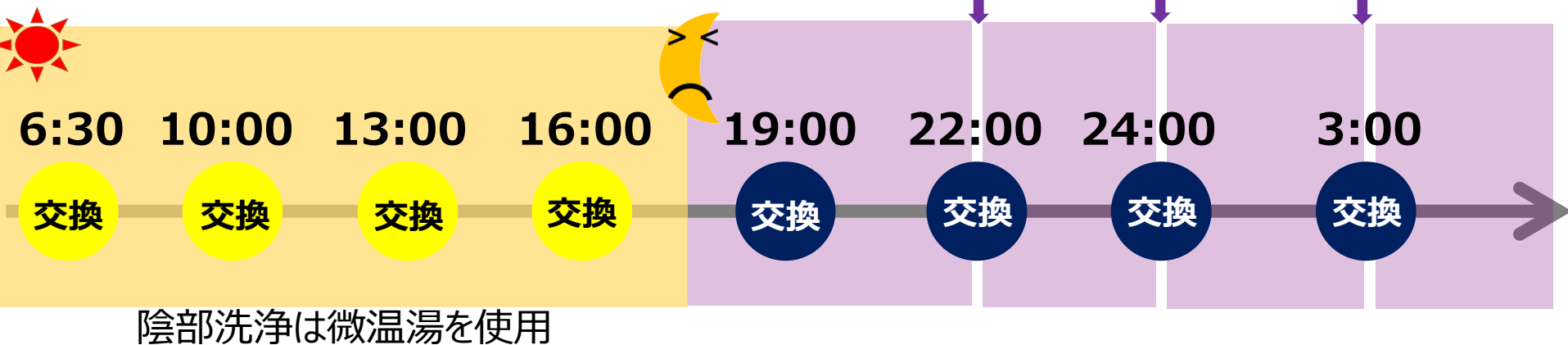
- 入居者の良眠を確保
- スタッフの負担を低減
できる可能性

【目的】

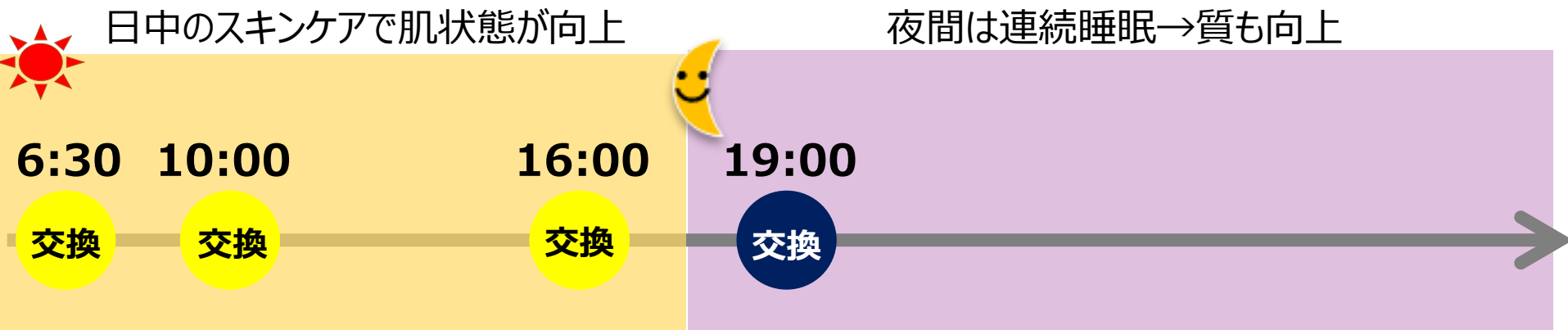
夜間のパッド交換の見直しが、有料老人ホーム入居者の睡眠状態および意欲やADLに与える影響を検証

方法：パッド交換回数の変更(例)

●従来のケア：8回交換



●夜間良眠ケア：4回交換



おしり洗浄液を使用し、
洗浄・保湿・肌保護を徹底

吸収力、逆戻りの少ないパッドへ変更

方法：実践の流れ

各事業本部

推進メンバー研修

適宜サポート

データ集約

各ホーム

ホーム研修 ・ 講師は推進メンバー

準備

- ・ 対象入居者の検討
- ・ 排泄アセスメント
- ・ パッドの種類・交換回数の検討
- ・ 説明・同意取得
- ・ サンプル利用による検証
- ・ 事前評価（3ヶ月・6ヶ月と同じ項目）

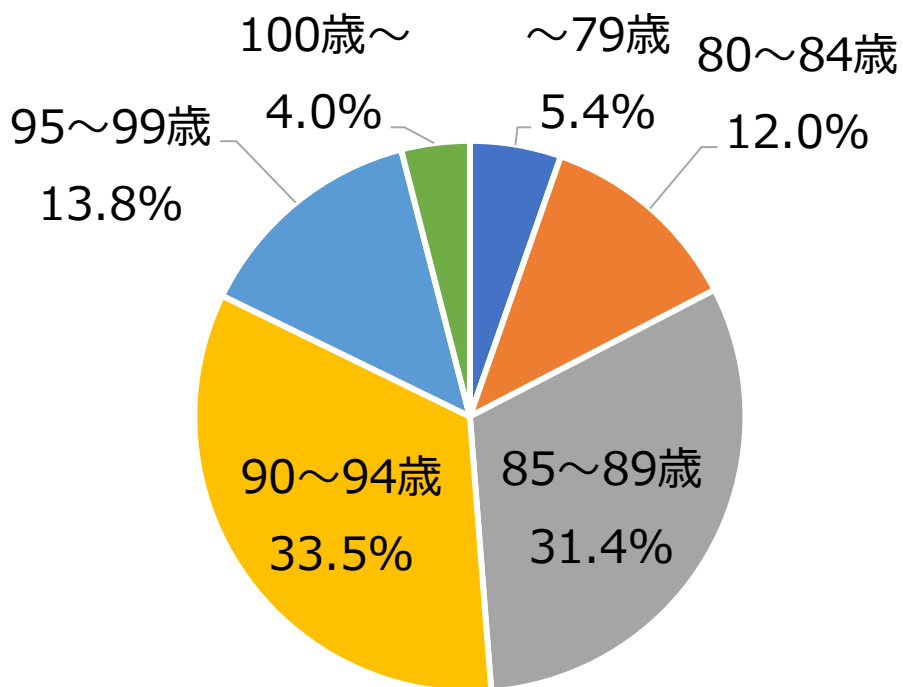
実践

- ・ 入居者の様子を適宜記録
- ・ 必要に応じて排泄方法の見直し
- ・ 3ヶ月・6ヶ月に以下を評価
 - 睡眠状態：アテネ不眠尺度
 - 意欲：Vitality Index
 - ADL：Barthel Index

方法：対象者

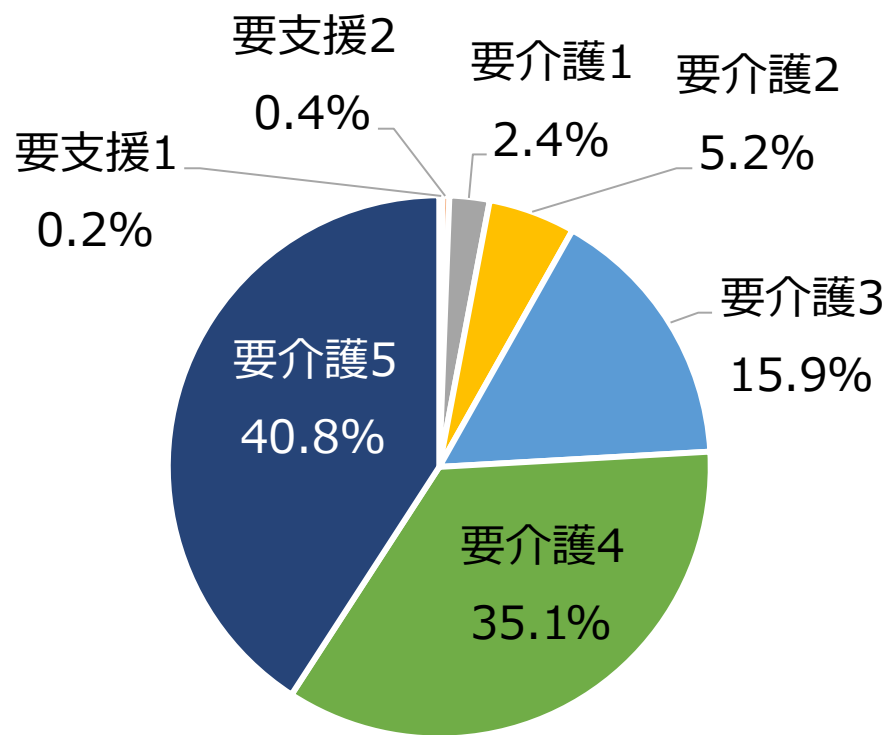
3ヶ月評価が終了した対象者549名（2019年2月15日現在）

年齢層



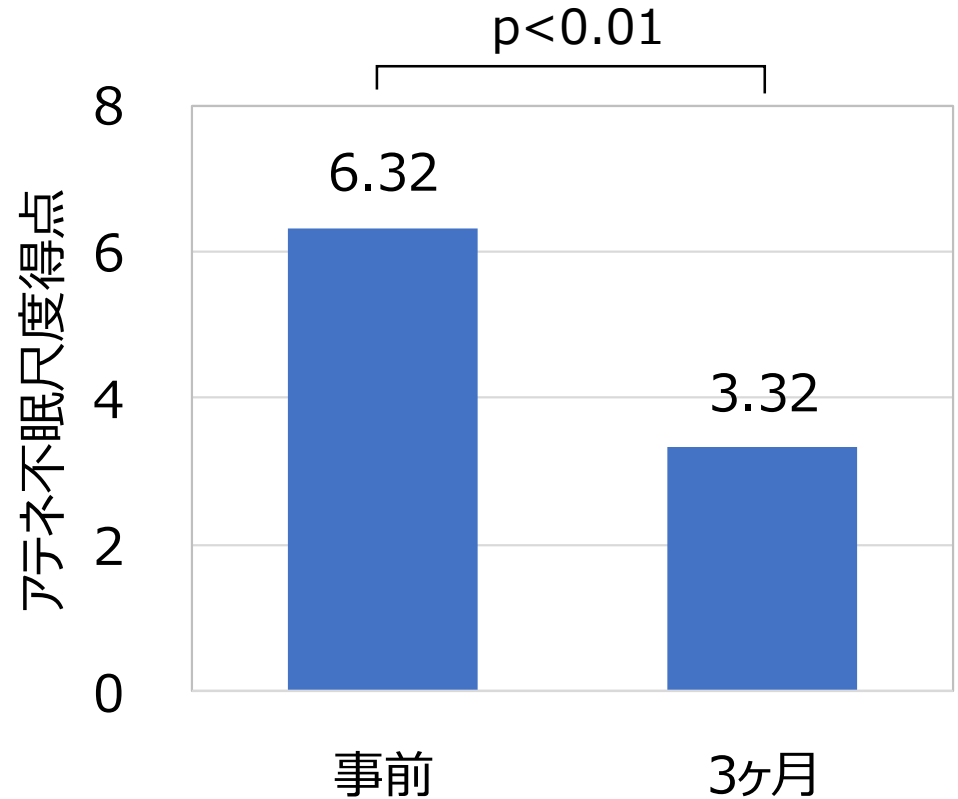
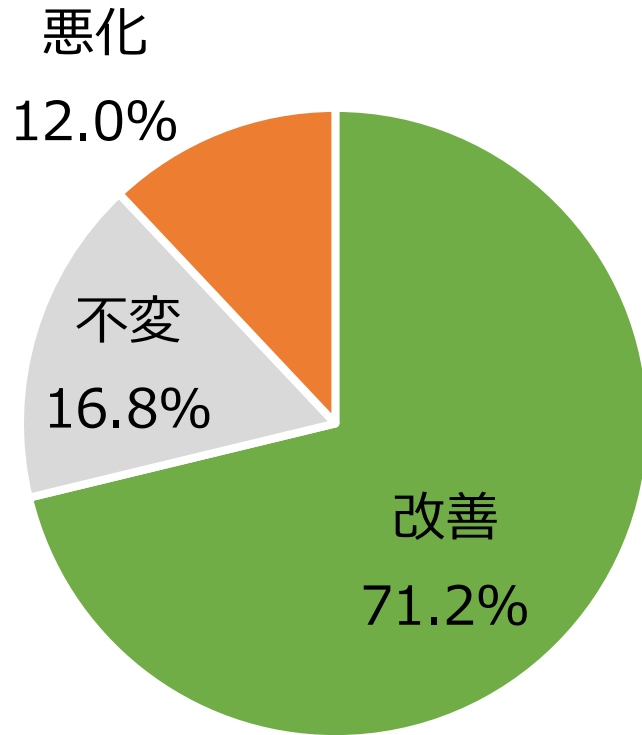
平均 89.3歳

要介護度



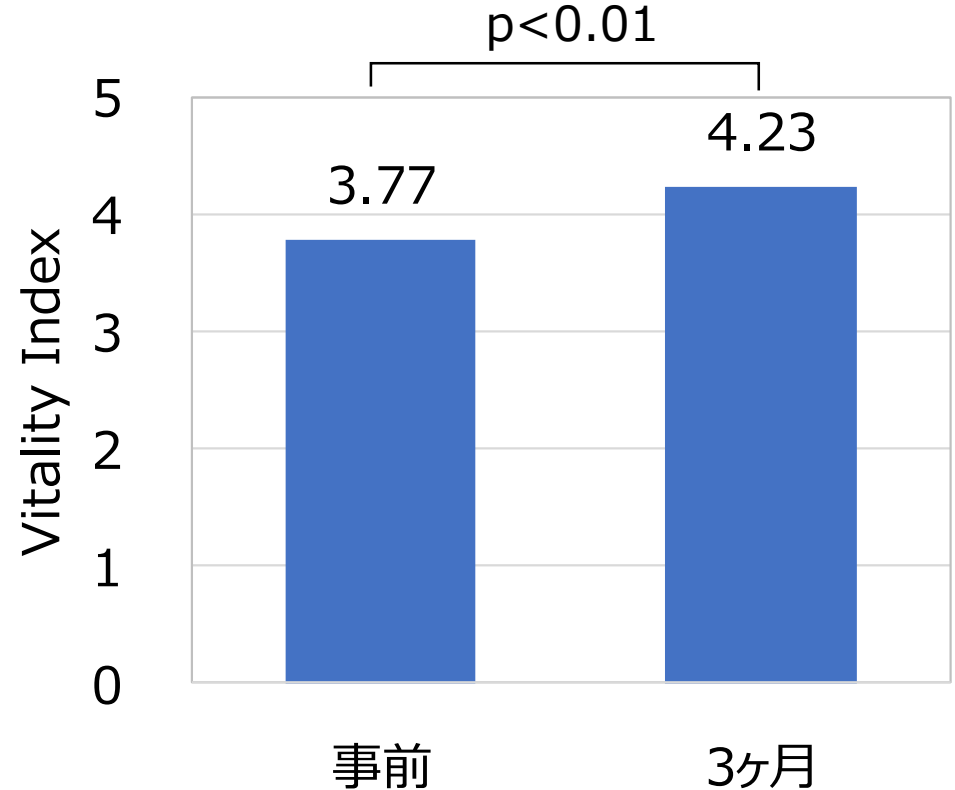
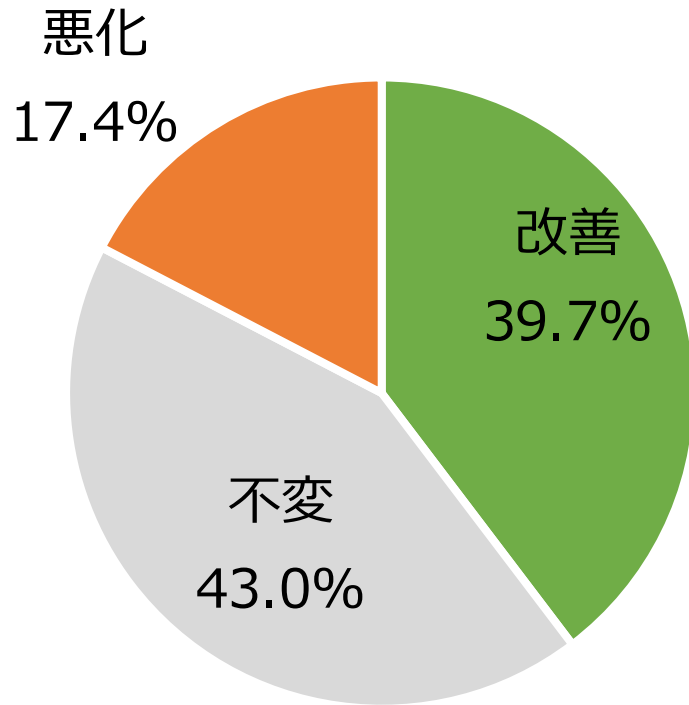
平均 4.05

結果：睡眠状態の変化（アテネ不眠尺度）



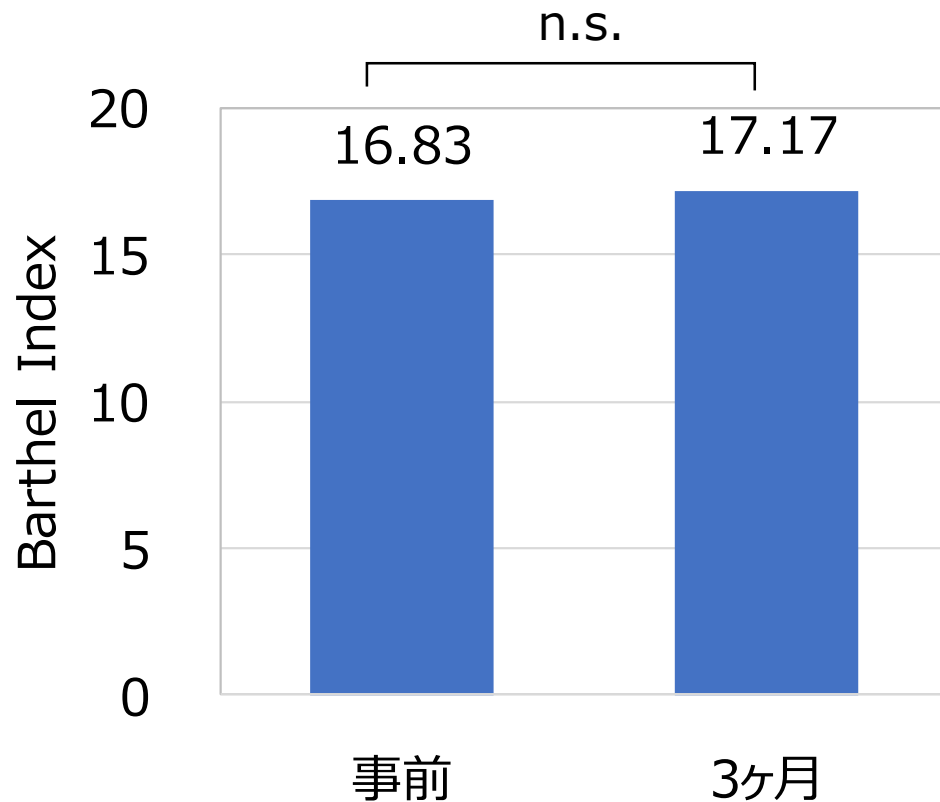
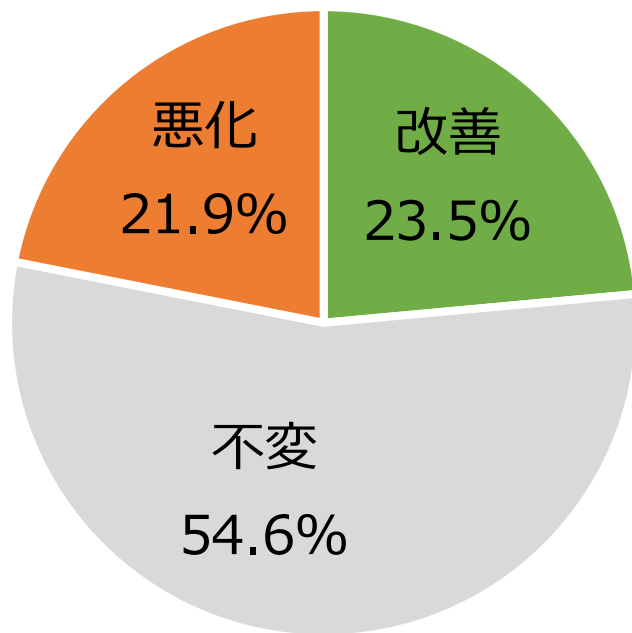
夜間の睡眠状態が改善し、日中の覚醒状態の改善にもつながっている

結果：意欲の変化（Vitality Index）



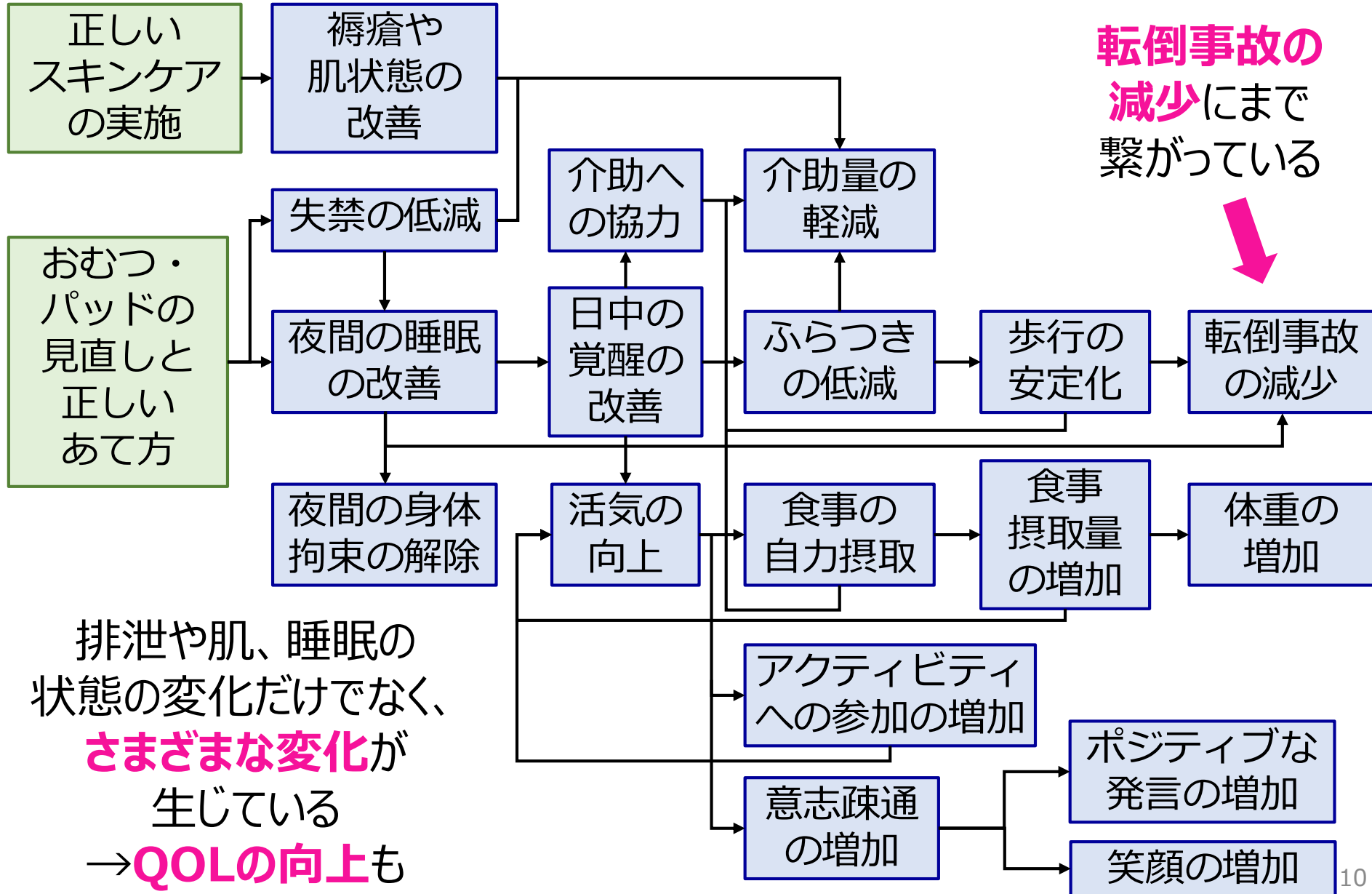
特に起床や意思疎通における意欲の向上が顕著
介助を受ける際に協力的になったとの声も

結果：ADLの変化（Barthel Index）



ADLは、向上した入居者がいる一方、低下した入居者もいたため、全体としては有意差は認められなかった

考察：夜間の排泄ケアの見直しが及ぼす影響



まとめ

- 長時間使用しても肌をさらさらに保つパッドの使用と、洗淨液を利用したスキンケアの徹底により、夜間のパッド交換回数を低減した
- その結果、夜間の睡眠状態、さらには日中の覚醒が改善する傾向が示された
- 意欲も向上する傾向が見られた
- ADLは全体としては有意差は見出されなかったものの、23.5%で改善が見られた
- アセスメントに基づき、夜間の睡眠の確保に配慮した排泄ケアは、入居者の生活のさまざまな面で改善につながり、QOL向上に資することが示唆された